

3) 長岡赤十字病院泌尿器科における腹腔鏡手術

森下 英夫・鳥居 哲 (長岡赤十字病院
泌尿器科)
中嶋 祐一 (県立小出病院
泌尿器科)

長岡赤十字病院泌尿器科において副腎摘出術4例、腎摘出術2例、精索静脈瘤根治術9例の計15例の腹腔鏡手術を施行した。副腎は4例ともアルドステロン症であったが、うち1例で術後 MRSA 感染症が起きた。150 cm, 60 kg と小太りの女性で、左腺腫の摘出に6時間33分かかったが、翌日 39.2℃ の発熱がみられ、術後4日目にはドレーンより膿が排出し、細菌培養で MRSA が検出された。ドレーンの径を大きくするとともに、位置を改善し、ポビドンヨードによる1日2回の洗浄、抗生剤投与を併用して治癒した。腎摘出術は水腎症から萎縮腎になった2例に施行したが、うち1例は右精索静脈を切って出血し、開腹になった。精索静脈瘤では大きなトラブルはなかったが、穿刺針が入りにくくオープンラパロになった症例が9例中3例にみられた。

4) 新潟大学泌尿器科における腹腔鏡手術

郷 秀人・今井 智之
渡辺 竜助・米山 健志
車田 茂徳・水澤 隆樹
武田 正之 (新潟大学泌尿器科)

1991年2月より1993年6月までに、31例に対し腹腔鏡手術を施行した。男性23例女性8例で年齢は3から69歳(平均30.5歳)であった。内訳は、混合型性腺異常発生症に対する性腺生検1例、停留精巣の検索9例、精索静脈瘤に対する内精血管のクリッピング8例、前立腺癌に対する骨盤内リンパ節郭清3例、副腎腫瘍に対する副腎摘除術10例であった。いずれの症例も目標を達することができた。合併症としては、副腎摘除術の際の止血困難な静脈性出血1例と、骨盤内リンパ節郭清の際の膀胱損傷1例があり、いずれも開放性に修復した。他には皮下気腫2例と頭痛1例が認められたが、いずれも保存的に対処し消失した。

5) Cushing 症候群に対する腹腔鏡下副腎摘出術—ultrasonic aspirator の使用について—

今井 智之・郷 秀人
米山 健志・筒井 寿基
武田 正之・佐藤昭太郎 (新潟大学泌尿器科)

新潟大学では1992年1月17日、初めて腹腔鏡下副腎摘出術を行って以来現在まで17例に対して行い、うちクッシング症候群は3例である。クッシング症候群では副腎腺腫が脂肪の中に埋もれて存在しやすく、また大きめで柔らかく脆い。このため腹腔鏡下で腺腫を脂肪塊の中から見だし、他と分けるのはかなり習熟を要する。今回超音波外科用吸引装置を使用したところ、脂肪のみが吸引され副腎静脈などの血管や副腎腺腫をきれいに露出することが可能であった。ただし、1. 従来の凝固切開より時間がかかる。2. 灌流液の流出と吸引とのバランスが難しく術野を確保しにくい。3. プローベ先端から脂肪の破片が飛び散り、内視鏡に付着して視野を悪くする。4. 手術台上の spaghetti syndrome の助長などの問題点があった。

II. 特 別 講 演

泌尿器腹腔鏡手術の合併症について

関西医科大学泌尿器科助教授

松田公志先生

第5回新潟精神医学交流会

日 時 平成6年1月29日(土)

13時30分～17時30分

会 場 新潟大学医学部第5講義室

I. 一 般 演 題

1) 抑うつ状態と痴呆様認知障害を呈した老年期症例の1年後転帰について

上原 徹・佐藤 新 (新潟大学精神医学)
飯田 眞 教室
佐藤 聡 (山形県立鶴岡病院)
長谷川まこと (新津信愛病院)

【目的】本格的な高齢化社会を迎え、我々が遭遇する代表的な老年期精神障害に抑うつ状態と痴呆がある。そ